令和６年度　２年生

久御山高校

シラバス

【科目案内と学習内容】

京都府立久御山高等学校

令和６年度　２年生シラバス

目　　次

国語科　・・・・・・・・・・・・　2-01

地歴・公民科　・・・・・・・・・・・・　2-04

数学科　・・・・・・・・・・・・　2-08

理　科　・・・・・・・・・・・・　2-12

保健体育科　・・・・・・・・・・・・　2-16

芸術科　・・・・・・・・・・・・　2-20

英語科　・・・・・・・・・・・・　2-23

家庭科　・・・・・・・・・・・・　2-26

総合的な探究の時間　・・・・・・・・・・・・　2-27

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-01	国語	論理国語	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

■1年次での学習を踏まえ、より高度で論理的文章や実用的な文章を学習する。「読むこと」・「書くこと」を中心に取り組む。

学習目標

■実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。
■論理的に考える力や深く共感したり豊かにしたりする力を伸ばす。
■他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりする。
■言葉の論理性への認識を高め、理解できる能力を養う。

学習方法

使用教科書 【三省堂704 新 論理国語】

予習では漢字や語句の読み方・意味を調べておく。
授業では予習内容を確認し、読解のポイントの理解に努める。
目的や場に応じて様々な観点から意見をまとめ相手の立場や考えを尊重して適切な表現や論理構築ができるようにする。

評価方法

知識・技能 30 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
						▼						▼															▼									▼	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
読む	他者について考える		■	■	■	■	■	■	■																												
	芸術について考える																■	■	■	■	■	■															
	ジェンダーについて考える																												■	■	■	■					
書く	書き方の基礎											■											■	■	■	■	■										
	意見文									■	■												■	■	■									■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-02	国語	文学国語	2	S・A文	2	必修

何を学ぶか

■1年次の学習を踏まえ、近代以降の文学作品によって日本語の文学的側面を学び、その知識や教養を身につける。また、それらを活用する資質・能力を養う。
■作品理解に必要な教養や知識を身につける。

学習目標

■近現代の文学作品や文章によって日本語の文学に対する知識や理解を深める。
■様々な文章に触れることで豊かな感性や情緒を養う。

学習方法

使用教科書 【三省堂703 新 文学国語】

■新しい文章に取り組む際には必ず本文を読んでおくこと。また分からない漢字や語句については調べておくこと。
■分からない点は次の授業までに解決しておくこと。答えを覚えるのではなく、自分で考え、読み取れる力を身につけることを心がけること。

評価方法

知識・技能 20 % : 定期考査により評価する。

思考・判断・表現 50 % : 定期考査、学習課題により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
											▼															▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
読む	小説		■	■	■	■	■	■	■								■	■	■	■	■	■	■								■	■	■	■			
	詩歌										■	■																									
	表現技法																									■	■			■							
書く	意見文																							■	■												
	創作								■	■																								■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-03	国語	古典探究	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

■1年次の学習内容を踏まえ、古典作品の学習を通して知識や理解を深めるだけでなく文化的社会的背景などに目を向け、より深い学びにつなげていく。
■上代から近世の作品に触れることで豊かな感性や情緒を育てる。

学習目標

■作品理解や内容理解だけではなく、文法、句法などを理解し応用することによって、より高い知識、理解を深める。
■作品そのものだけでなく、その背景となる事柄にも目を向け日本語文化を担うことができるようになる。

学習方法

使用教科書 【数研出版711 高等学校 古典探究】

■予習では、本文の通読だけでなく語句や文法事項を調べておく。
■自分で現代語訳ができるように重要事項の理解だけでなく、実践するように努めること。

評価方法

知識・技能 40 % ： 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 30 % ： 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30 % ： 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
							▼					▼									▼															▼	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
古文編	説話	／					■	■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
	文法	／	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／	／	／				■	■					■	■	／	／							／	／
	歌物語	／											／	／	／	／						■	■	■	■			／	／							／	／
	日記	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
漢文編	史伝	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-04	地理歴史	地理総合	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

①現代の地理的な諸課題をグローバルな視点から考察し、自らがどのように行動すべきか考える力を養う。
②地図や地理情報システム（GIS）を用いて、実践的な地理的技能を学ぶ。

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。

学習方法

使用教科書【帝国書院707　高校生の地理総合】【帝国書院702　新詳高等地図】

①教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事に関心を持つ。
②テーマに沿ってグループ学習、討論、GISを用いた作業を行う。

評価方法

知識・技能　40%　：　定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現　40%　：　定期考査、課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度　20%　：　各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
											▼															▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地図でとらえる現代世界	地図と地理情報システム		■	■	■	■																															
	結びつきを深める現代世界						■	■	■	■																											
国際理解と国際協力	生活文化の多様性と国際理解										■	■					■	■	■	■	■	■	■														
	地球的課題と国際協力																							■	■	■	■			■								
持続可能な地づくりと私たち	自然環境と防災																														■	■	■	■			
	生活圏の調査と地域の展望																																		■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-05	地理歴史	歴史総合	2	P	2	必修

何を学ぶか

① 近代史・近現代史を中心に世界と日本の歴史を学ぶ。
②「近代化」の時代を学ぶことにより国家の成り立ちを学ぶ。
③「国際秩序の変化や大衆化」について学ぶことで二度の世界大戦の展開・結果について学ぶ。
④「グローバル化」という視点から現代の世界規模の諸問題について学ぶ。

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

学習方法

使用教科書【山川出版707　歴史総合 近代から現代へ】

① 教科書に沿いながら学習を進め、授業に関連する出来事に関心を持つ。
② テーマに沿ってグループ学習や討論を行う。

評価方法

知識・技能　35%　：　定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現　40%　：　定期考査、小テスト等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度　25%　：　各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
											▼															▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
近代化と私たち	結びつく世界	／	■	■									／	／	／	／												／	／							／	／
	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	／			■	■							／	／	／	／												／	／							／	／
	明治維新～帝国主義	／					■	■	■	■			／	／	／	／												／	／							／	／
国際秩序の変化や大衆化と私たち	第一次世界大戦と大衆社会	／									■	■	／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／
	経済危機と第二次世界大戦	／											／	／	／	／				■	■	■						／	／							／	／
	戦後の国際秩序と日本の改革	／											／	／	／	／							■	■				／	／							／	／
グローバル化と私たち	冷戦と世界経済	／											／	／	／	／									■	■	■	／	／	■	■					／	／
	グローバル化する世界、現代の課題	／											／	／	／	／												／	／			■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-06	地理歴史	日本史探究	2	S・A文	4	選択

何を学ぶか

（1）原始古代から近世までの日本の歴史を学ぶ。
（2）日本の歴史に関する出来事の意義や、文化の特色・伝統への理解を深める。
（3）複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

○ 原始古代からの日本史展開を世界の歴史と関連づけた総合的視野に立って探究し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で主体的に生きる資質・能力を培う。

学習方法

使用教科書【山川出版社705　詳説日本史 】

（1）世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
（2）国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に探究する。
（3）資料集を活用したり、様々な情報（新聞やインターネットなどで）を収集し、考察する。
（4）ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
（5）文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

知識・技能　40%　：　定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現　40%　：　定期考査、各種課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度　20%　：　授業ノート、振り返りシート、各種課題への取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
						▼					▼									▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
日本史探究	原始・古代	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	中世	／											／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■			／	／							／	／
	近世	／											／	／	／	／										■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-07	地理歴史	世界史探究	2	S・A文	4	選択

何を学ぶか

1　地域ごとの比較考察や地域相互の関連についての学習をします。
2　地域別・国別または事項別に大きくまとめる学習をします。
3　現代の諸地域の社会と文化に関連させながら歴史の学習をします。
4　日本史上の事象とも関連させ、世界史上における日本の位置を明らかにします。
5　世界史上の人物について時代背景や地域の特質と関連付ける学習をします。

学習目標

1　世界史に関する興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育成します。
2　世界史の大きな枠組みと流れを、我が国を含む諸地域世界の歴史と関連付けながら理解させます。
3　自国の歴史や文化をより客観的に見る目を育て、国際社会に生きる日本人としての資質を養います。
4　主題学習を通して客観的で公正なものの見方を育てるとともに、広い視野から歴史を考察します。

学習方法

使用教科書【山川出版704　詳説世界史】

1　生徒に理解させるべき基礎的な内容を明確にし、課題や小テストを通して重点的に指導します。
2　近年の研究・発見などの成果を反映した授業を行い、最新の情報を提供します。
3　歴史資料・歴史図版・新聞・ビデオ教材などを活用し、生徒の興味・関心を引き出す工夫をします。
4　ノート点検や発問を積極的に行い、生徒のより良好な学習態度を育てます。
5　大学・就職などの入試の傾向に注意し、補習を実施すると共に、必要な進路情報を提供します。

評価方法

知識・技能　40%　：定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現　40%　：定期考査、小テスト等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度　20%　各種課題、振り返りシートへの取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
							▼				▼									▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
世界史探究	西アジア世界と地中海世界	／	■	■	■	■							／	／	／	／												／	／							／	／
	南アジア世界−インド文明	／					■	■	■				／	／	／	／												／	／							／	／
	東アジア世界	／								■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	イスラームの広がり	／											／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／
	ヨーロッパ世界の形成	／											／	／	／	／				■	■	■	■					／	／							／	／
	中央ユーラシア世界	／											／	／	／	／								■	■	■		／	／							／	／
	近世ヨーロッパ	／											／	／	／	／											■	／	／	■	■	■				／	／
	アジア諸地域の帝国	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-08	数学	数学Ⅱ	2	S	4	必修

何を学ぶか

・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711　新編 数学Ⅱ】

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

知識・技能　40%　：　定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現　40%　：　定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度　20%：　課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
						▼					▼								▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅱ	式と証明・方程式	／	■	■	■	■	■	■					／	／	／	／												／	／							／	／
	図形と方程式	／							■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	三角関数	／											／	／	／	／	■	■	■	■								／	／							／	／
	指数・対数関数	／											／	／	／	／					■	■	■	■	■	■		／	／							／	／
	微分法と積分法	／											／	／	／	／											■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-09	数学	数学Ⅱ	2	A	4	必修

何を学ぶか

・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711　新編 数学Ⅱ】

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題および副教材の例題を解くと、理解が深まり、応用力がつきます。
・毎日続けることが大切です。
・進学に向けた取り組み（講習等）に積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

知識・技能　40%　：　課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現　40%　：　定期テストによる到達目標の到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度　20%：　課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
							▼				▼									▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅱ	式と証明・方程式	／	■	■	■	■							／	／	／	／												／	／							／	／
	図形と方程式	／					■	■	■	■	■	■	／	／	／	／												／	／							／	／
	三角関数	／											／	／	／	／	■	■	■	■								／	／							／	／
	指数・対数関数	／											／	／	／	／					■	■	■	■	■	■		／	／							／	／
	微分法と積分法	／											／	／	／	／											■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-10	数学	数学Ⅱ	2	P	2	必修

何を学ぶか

・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。そのうち2年生では、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711　新編 数学Ⅱ】

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
・毎日続けることが大切です。

評価方法

知識・技能　40%　：　定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現　40%　：　定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度　20%：　課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
						▼					▼									▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学Ⅱ	式と証明・方程式		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																									
	図形と方程式																■	■	■	■	■	■	■	■													
	三角関数																								■	■				■	■	■	■	■	■		
	指数・対数関数																																				
	微分法と積分法																																				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-11	数学	数学B	2	A理	2	必修

何を学ぶか

・数学Bは、数列、統計的な推測を学びます。
・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版712　新編 数学B】

・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題および副教材の例題を解くと、理解が深まり、応用力がつきます。
・毎日続けることが大切です。
・進学に向けた取り組み（講習等）に積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

知識・技能　40%　：　課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現　40%　：　定期テストによる到達目標の到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度　20%：　課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
						▼					▼								▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
数学B	数列	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■								／	／							／	／
	統計的な推測	／											／	／	／	／					■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-12	理科	地学基礎	2	A文	2	必修

何を学ぶか

・日常生活や社会との関連を測りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察、実験などを通して、地学の基本的な概念や原理・法則を学習する。
・地球の環境の変化、日本の自然環境とその恩恵や災害などの地球や地球を取り巻く環境について学習する。
・地球や地球を取り巻く宇宙について、形成や現在までの変遷を一連の時間のながれをとらえながら学習する。

学習目標

・日常生活や社会との関わりについて興味を持ち、地球や地球を取り巻く環境への科学的な見方や考え方を養う。
・実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから性格な情報を読み取る力を養う。
・地学的に探求する能力を育むために、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

学習方法

使用教科書【数研出版704　高等学校 地学基礎】

・授業前に必ず教科書に目を通しておくこと。またその際、図表・グラフ・写真などについても目を通し、専門用語やわからない語句があれば調べておくこと。
・授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
・実習・実験には興味関心を持ち、積極的に参加すること。
・実験レポート等の課題や提出物は丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能　50%　：　【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現　30%　：　【定期考査・小テスト】

主体的に学習に取り組む態度　20%　：　【授業課題・提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
					▼						▼									▼						▼									▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
地学基礎	活動する地球		■	■	■	■	■																														
	移り変わる地球							■	■	■	■																										
	大気と海洋											■					■	■	■	■																	
	地球の環境																										■			■	■	■	■	■	■		
	太陽系と宇宙																				■	■	■	■	■	■											

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-13	理科	物理基礎	2	A理	2	必修

何を学ぶか

・自然界にある現象のうち、物理的な現象について扱います。
・大きくは力学領域、波動領域、熱力学領域、電磁気領域からなり、それら諸現象について、その法則性を学びます。

学習目標

・自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見いだし、諸現象をその法則性・規則性によって説明できることを目指します。
・実習・実験を通じ、科学的視点に基づいた自然探究の方法論を身につけ、意欲・関心を高めることを目指します。

学習方法

使用教科書【数研出版708　新編 物理基礎】

・力学・波動・熱力学・電磁気の領域があり、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。
・多くの場合、規則性・法則性は数学の式を用いて表すので、数学の知識が大切になります。

評価方法

知識・技能　50%　：　定期考査、小テストについての得点評価

思考・判断・表現　30%　：　定期考査、実習についての得点評価、取組評価

主体的に学習に取り組む態度　20%　：　実習、学習の振り返りについての取組評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
物理基礎	運動の表し方	／	■	■	■	■								／	／	／	／											／	／							／	／
	運動の法則	／					■	■	■	■	■	■		／	／	／	／											／	／							／	／
	運動とエネルギー	／												／	／	／	／	■	■									／	／							／	／
	熱とエネルギー	／												／	／	／	／			■	■	■	■					／	／							／	／
	波の性質	／												／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／						／	／
	音波	／												／	／	／	／											／	／		■	■				／	／
	電流の流れ方	／												／	／	／	／											／	／				■	■	■	／	／
	電気の利用	／												／	／	／	／											／	／						■	／	／
	物理学と社会	／	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□		／	／	／	／	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	／	／	□	□	□	□	□	□	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-14	理科	化学	2	A理	4	必修

何を学ぶか

〇『化学基礎』で学んだ内容をもとに、化学の本質に迫って行く。
・前半では、気体・溶液・反応速度・化学平衡を、後半では無機物質の性質の各論・有機化合物を学習する。
・また、それぞれの物質がその特徴をいかして私たちの日常生活の中で利用されていることや、人間と化学の関わり方を考える。

学習目標

〇気体・希薄溶液の性質、化学反応の速さ、化学平衡の仕組みを通して物理化学の分野を、非金属元素の単体・化合物、金属元素の単体・化合物を典型元素と遷移元素に分けて学習し、性質・用途を理解する。
〇化学的な見方、考え方を養うとともに、自然科学全体に対する興味・関心を引起こすことを目標とし、1年次の『化学基礎』から引き継ぐ。

学習方法

使用教科書【数研出版706　化学】

〇基礎的な学習を大切にし、特に一つ一つの用語の定義や意味をしっかり理解できるように丁寧に学習する習慣を身につける。また、実験や画像を通して、五感を通して物質をとらえていくことを重視する。

〇化学基礎に比べて、数式の取り扱いが多くなるが、演習の時間も多く使いながら、問題を解くことで理論を実感できるようにする。あくまで、授業をしっかり聞いて、授業の中ですべてのことを解決していく集中力を期待している。

〇化学は実験からスタートする学問である。実験は積極的に行い、多くのことを実験から学んでほしい。実験レポートは丁寧に考察しながら書き上げるように取り組む。

評価方法

知識・技能　50　%　：【定期考査、小テスト】

思考・判断・表現　30　%　：【定期考査、実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度　20　%　：【提出物、実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
化学	電池と電気分解		■	■	■	■																															
	粒子の結合と結晶						■	■																													
	物質の状態変化								■																												
	気体									■	■																										
	溶液											■					■	■																			
	化学反応とエネルギー																		■	■	■																
	化学反応の速さとしくみ																					■	■														
	化学平衡																							■	■	■											
	非金属元素																										■			■	■						
	金属元素																															■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-15	理科	生物基礎	2	P	2	必修

何を学ぶか

・生物の持つ特徴に注目し、共通性と多様性について学ぶ。特に共通性については細胞や遺伝などミクロな視点で学習する。
・ヒトの体内環境を維持する仕組みについて学ぶ。具体的には神経系、内分泌系、免疫系という仕組みに迫り、体内環境で起こる情報伝達の仕組みについて学習する。
・生物の多様性と生態系について学ぶ。生物どうしの関わり合いや、生物と環境との関わりについて学習し、社会における生物学の役割についても学習する。

学習目標

・中学校理科の内容を踏まえ、分類・比較などの手法を用いて生命現象を理解する力を養う。
・実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
・身近な地域社会と生物との関わりについて興味を持ち、環境と生物の共存に向けて有効な取り組みを考えられるようになる。

学習方法

使用教科書【数研出版707　生物基礎】

・授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
・授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
・家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
・実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加すること。
・実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。
・資料集は授業で必ず使用するため、必携すること。

評価方法

知識・技能　50%　：【定期考査、小テスト】

思考・判断・表現　30%　：【定期考査、小テスト】

主体的に学習に取り組む態度　20%　：【課題等提出物、実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
					▼						▼									▼						▼									▼		
生物の特徴	生物の特徴		■	■	■	■	■																														
	遺伝子とそのはたらき							■	■	■	■	■																									
ヒトの体内環境の維持	ヒトの体内環境の維持																■	■	■	■	■	■	■	■	■												
生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系																									■	■			■	■	■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-16	保健体育	保健	2	S・A・P	1	必修

何を学ぶか

・現代社会においては国民すべてにとって心身の健康増進が大きな課題となってきている。「保健」は、健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて心身の健康増進を図るために実践する力を養う。

学習目標

・人間の一生のなかで、高校生の時期は体や心の発達という点から大変重要な意味を持っている。保健の授業では、個人としてだけでなく、社会の一員としてSDGsに絡めた健康の問題を考え、健康的な生活習慣を身につけることを目指す。
・生活環境を守るための知識と能力を高め、生涯を通じた健康づくりの基礎の確立を目指す。
・生活行動と健康との関わりや環境問題について自ら調査・研究し学習することにより、今後の生活において、健康増進に役立てられるようにする。

学習方法

使用教科書 【大修館701 現代高等保健体育】

・授業に集中し、単元の内容を理解するとともに、健康と安全に留意した日常生活が送れる態度を身につける。「環境と健康」については個人でテーマを設定し、課題学習に取り組む。
・夏季休業中に個人で選択したテーマの分野から、各自が興味関心のある事柄について深く研究を行い、レポートを作成する。
・個人で発表ができるように、内容をまとめ、重要な項目については資料を作成する。
・毎時間の個人発表について、個人ノートに内容をまとめる。

評価方法

知識・技能 40% : 1学期末考査・学年末考査の定期考査、2学期の課題レポートおよび記録用紙。

思考・判断・表現 30% : 2学期に行う3分間スピーチ・1学期末考査・学年末考査の定期考査。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
保健	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ・思春期と健康		■	■	■	■																															
	妊娠・出産・人工妊娠中絶					■	■	■																													
	結婚生活・中高年期と健康								■	■																											
	働くこと・労働災害と健康																									■	■			■							
	環境と健康										■	■					■	■	■	■	■	■	■	■	■												
	食品の安全性・食品衛生										■	■					■	■	■	■	■	■	■	■	■												
	保健・医療サービス・医薬品の制度																														■	■	■				
	さまざまな保健活動																																	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-17	保健体育	体育	2	S・A	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
・体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書 【大修館701 現代高等保健体育】

・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・スポーツテストを行う。
・学期ごとに選択種目2種目を行う。1年生から引き続き実施する種目については、実践的な技術を身につけゲームを楽しめるよう、体力や技能の習得を目指す。
・また、剣道・ダンス・陸上選択については、1・2学期を通じて実施する。

評価方法

知識・技能 40% : 基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現 30% : ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	男/女	集団行動・スポーツテスト		■	■																																	
		体つくり運動				■																																
		体育理論											■																									
		バスケットボール					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		
		バドミントン					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		
		テニス					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		
		ソフトボール					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●		
		剣道					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
		ダンス					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
		陸上競技					●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	■			■	■	■	■	■	■		

■は必修種目、●は選択して実施する種目　　＊3学期の陸上競技は長距離走とし、週2時間行う

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-18	保健体育	体育	2	P	3	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
・体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701　現代高等保健体育】

・1学期始めにオリエンテーション、集団行動・スポーツテストを行い、1・3学期に2種目、2学期は3種目を毎週実施する。
・各種目とも基本的な体力、実践的な技能の習得を目指し、より高度なゲームができるよう授業を計画、実践することを目標とする。

評価方法

知識・技能　40%　：　基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現　30%　：　ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度　30%　：　自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
体育	集団行動・スポーツテスト		■	■																																	
	剣道				■	■	■	■	■	■	■	■					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■		
	男：ソフトボール				■	■	■	■	■	■	■	■																									
	女：ダンス				■	■	■	■	■	■	■	■																									
	男：バスケ・体育理論																■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■										
	女：テニス・体育理論																■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■										
	男：サッカー																■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■										
	女：バスケットボール																■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■										
	長距離走																													■	■	■	■	■	■		

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-19	保健体育	スポーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ	2	P	4	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

使用教科書【大修館701　現代高等保健体育】

・スポーツ総合専攻1、2、3年生を専攻種目ごとの縦割り集団として、実戦的でレベルの高い専攻種目の授業を行う。

評価方法

知識・技能　40%　：　基礎的な個人技能の実技テスト・自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

思考・判断・表現　30%　：　ゲームや記録会などの応用技能、自己記録用紙・自己評価用紙などを評価資料とする。

主体的に学習に取り組む態度　30%　：　自己評価用紙、各課題の取り組み状況により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
スポーツⅡ	剣道（男・女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	陸上競技（男・女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-20	芸術	音楽Ⅱ	2	S・P	2	選択

何を学ぶか

・音楽Ⅰで学んできたものを基礎とし、音楽を身近なものとして楽しみ、芸術に親しむための基礎を学ぶ。
・音楽が社会の中でどのような役割を担い、音楽が活用される職業にはどのようなものがあるのか学ぶ。

学習目標

・音楽を身近なものとして楽しみ、芸術に親しむための知識・技能を学んでいく。
・社会に於いて音楽が活用される場面、職業を知り、基礎的なことを身につける具体的な方法を学んでいく。

学習方法

使用教科書【教育芸術社 702　高校生の音楽2】

・歌唱 :教科書やそれ以外にも幅広い教材を用いて、独唱、斉唱、重唱をする。
・器楽 :ギターやキーボードの基礎的な奏法を学び、それらを用いて小アンサンブルを楽しむ。
・鑑賞 :映像や音源を通して、芸術を幅広く理解し音楽のよさや美しさを味わう。

評価方法

知識・技能　35 %　:	創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている。鑑賞では芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている。
思考・判断・表現　35 %　:	知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度　30%　:	音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
音楽Ⅱ	歌唱	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	器楽	／		■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	楽典	／	■	■		■	■					■	／	／	／	／		■				■		■				／	／			■	■				／	／
	鑑賞	／						■	■				／	／	／	／			■		■		■					／	／	■	■					／	／
	実技テスト	／								■	■		／	／	／	／								■	■			／	／				■	■		／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-21	芸術	美術Ⅱ	2	S・P	2	選択

何を学ぶか

・表現力・基礎: ・演習　『レタリング・基礎』（書体: 明朝体、ゴシック体）。
・平面表現: ・グラフィックデザイン　『本の装丁』　自分のお気に入りの一冊を選定し、自分なりの表現で装丁する。
・絵画　『空想の世界』　自由な発想で自分だけの世界や意図（構図や色彩の効果を活用）を平面手法（水彩画）で表現する。
・鑑賞: ・各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像で接し、自己の美的感覚や表現力を高める。

学習目標

・色んな印刷物には様々な書体が使われていることを知り、それらが様々な効果を生むように工夫されていることを知る。
・モノ（今課題では書籍）の価値や魅力を文字（書体）や平面表現によって第三者に伝える力を養う。
・与えられた課題の範囲内で、幅広く着原点を広げ、自由な発想をし、自ら見出した主題＝『意図』を具現化する力を養う。
・各作品や商品、サービスなどに込められた意図・効果を学び、自己の美的感覚や表現の幅を広め作品完成度の向上を図る。

学習方法

使用教科書【日本文教出版702　高校生の美術2】

・表現力・基礎: ・演習　レタリング　『自分の名前から』＝氏名の名の一文字目を明朝体とゴシック体で描く。
・平面表現: ・本の装丁　自分が選定したお気に入りの本を自分だけの表現でレタリングの技術も活用して装丁する。
・絵画　『空想の世界』　自由な発想で自分だけの世界を表現する。（具体的なとテーマは別途指示）
・鑑賞: ・各分野の著名な作家や職人、諸先輩の作品や商品、提案物やサービスなどを教科書や資料画像を通して接する。

評価方法

知識・技能　35%　:	・基本的な表現技能を習得し、課題に応じた表現で丁寧に（完成度高く）仕上げられたか。
思考・判断・表現　35%　:	・課題を理解し、自ら主題を見つけ、自己の感性を働かせ、自分の意図した作品を完成するために最適な表現を創意工夫したか。 ・素直な気持ちで様々な作品に接したり、創作に生かしたり、多様な文化への理解を深められたか。
主体的に学習に取り組む態度　30%　:	・主体的に知識、および技能、表現力を身につけることに努めたか。 ・課題制作に対して、困難な状況に直面しても決してあきらめず粘り強く取り組めたか。 ・すべての作品を完成させて提出することを原則とする。 ・出欠遅刻過多や授業態度について、点数化はしないが評価をする上での対象項目とする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域		単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
美術Ⅱ	表現力・基礎	演習・レタリング	／	■	■	■	■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	デザイン	本の装丁	／						■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■						／	／							／	／
	絵画	空想の世界	／											／	／	／	／							■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	鑑賞	鑑賞	／	■					■					／	／	／	／							■					／	／							／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-22	芸術	書道Ⅱ	2	S・P	2	選択

何を学ぶか

・漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書・篆刻を学びます。

学習目標

・「書道Ⅰ」で学んだ内容を基礎として、新たな古典の鑑賞・臨書を行い、書の文化や伝統についての理解を深めるとともに、表現力を高めます。
・書の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養います。

学習方法

使用教科書【教育出版703　書道Ⅱ】

・漢字の書は、五体のうち書道Ⅰで学んでいない三体(篆書・隷書・草書)の古典を臨書し、仮名の書は新たに散らし書きの表現について学びます。多様な書体や古典への理解を深め、その技法をより確かなものにします。
・学んだ技法を活用し、自分の想いを表現する創作にもさまざまな形態で取り組みます。
・篆刻では刀で文字を刻すという異素材による表現に取り組み、書表現の奥深さにふれます。各工程でのさまざまな技法を根気よく積み重ねて完成した印は落款印としても活用します。

評価方法

○知識・技能　35 ％ ：

・書の表現の方法や、形式・表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。
・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身につけ、表している。

○思考・判断・表現　35％ ：

・書のよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し、個性豊かに表現を工夫している。
・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度　30％ ：

・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の創作的活動に取り組もうとしている。
・書についての知識や技能を習得するために粘り強く取り組んでいる。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
書道Ⅱ	篆書	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	篆刻	／					■	■	■	■		■	／	／	／	／												／	／							／	／
	隷書	／											／	／	／	／	■	■	■									／	／							／	／
	草書	／											／	／	／	／					■	■	■					／	／							／	／
	行書	／											／	／	／	／					■	■	■					／	／							／	／
	仮名	／											／	／	／	／									■		■	／	／							／	／
	創作	／											／	／	／	／								■				／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-23	外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	S・P	4	必修

何を学ぶか

「英語コミュニケーションⅠ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動（主に教科書）、聞く活動（主に副教材）、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRA2~B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【東京書籍702 Power On English Communication Ⅱ】
使用副教材【駿台文庫 システム英単語 Basic 5訂版】

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
④ 定期的に実施する単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

知識・技能　50%　：　定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現　30%　：　定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度　20%　：　授業プリント・ノート、課題プリント、授業の取り組み状況・振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
英語コミュニケーションⅡ	Lesson 1		■	■	■																																
	Lesson 2				■	■	■																														
	Lesson 3							■	■	■																											
	Lesson 4									■	■	■																									
	Lesson 5																■	■	■																		
	Lesson 6																		■	■	■																
	Lesson 7																					■	■	■													
	Lesson 8																								■	■	■										
	Lesson 9																												■	■	■						
	Lesson 10																															■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-24	外国語	英語コミュニケーションⅡ	2	A	4	必修

何を学ぶか

・「英語コミュニケーションⅠ」の学習内容を踏まえながら、まとまった英文を読む活動（主に教科書）、聞く活動（主に副教材）、表現する活動(主にライティングやスピーキングの取組)などを通じて、英語の4技能である「読む・聞く・書く・話す」力をバランスよく伸長していく。

学習目標

・幅広い話題について、読んだことや聞いたことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRA2~B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【東京書籍702 Power On English Communication Ⅱ】
使用副教材【駿台文庫システム英単語5訂版 / 数研出版 四訂版 UNITE 英語総合問題集 stage1】

① 新出単語及び熟語の意味、使い方等を理解する。
② 英文を読み、T or F や Q and A 等に取り組みながらその内容を把握する。
③ 既習表現を生かしたパフォーマンス課題(ライティングやスピーキングの取組)などを通して、アウトプットにつなげる。
④定期的に実施する単語テストで、単語の定着を図るとともに語彙力をつける。

評価方法

知識・技能　50%　：　定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現　30%　：　定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度　20%　：　授業プリント・ノート、課題プリント、授業の取り組み状況・振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
					▼						▼									▼						▼									▼		
英語コミュニケーションⅡ	Lesson 1		■	■	■																																
	Lesson 2				■	■	■																														
	Lesson 3							■	■	■																											
	Lesson 4									■	■	■																									
	Lesson 5																■	■	■																		
	Lesson 6																		■	■	■																
	Lesson 7																					■	■	■													
	Lesson 8																								■	■	■										
	Lesson 9																												■	■	■						
	Lesson 10																															■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-25	外国語	論理・表現Ⅱ	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

・問題の演習を通し、1年時の英文法を定着させ、実際の会話や英作文に役立つ知識を学び、英語で身近な話題や自分の考えを表現できる技術を身につける。

学習目標

・比較的短く易しい英文を使って、1年生で学習した文法事項のポイントを整理し、文法の基礎的な力を構築する。
・問題演習をすることで情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書く能力を更に伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
・卒業時にCEFRA2~B1レベルの英語力取得を目指す。

学習方法

使用教科書【三省堂705 MY WAY Logic and Expression Ⅱ】

①文法解説を行い、練習問題を解いておく。
②各レッスンの文法事項を理解し、例文を反復練習する。
③終えた問題を復習し、さらに理解を深める。
④学習した語句や表現・構文等を活用し、英語でまとまった文章を書く。

評価方法

知識・技能　50 ％ ： 定期考査、小テスト、課題など

思考・判断・表現　30 ％ ：定期考査、小テスト、課題など

主体的に学習に取り組む態度　20 ％　授業プリント、ノート、課題プリント、授業の取り組み状況、振り返りなど

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
論理・表現Ⅱ	Lesson1	／	■	■	■								／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson2	／				■	■						／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson3	／						■	■				／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson4	／								■	■		／	／	／	／												／	／							／	／
	Lesson5	／										■	／	／	／	／	■											／	／							／	／
	Lesson6	／											／	／	／	／		■	■									／	／							／	／
	Lesson7	／											／	／	／	／				■	■							／	／							／	／
	Lesson8	／											／	／	／	／						■	■					／	／							／	／
	Lesson9	／											／	／	／	／							■	■				／	／							／	／
	Lesson10	／											／	／	／	／									■	■	■	／	／							／	／
	Lesson11	／											／	／	／	／												／	／	■	■	■				／	／
	Lesson12	／											／	／	／	／												／	／				■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-26	家庭	家庭基礎	2	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

家庭生活で必要な知識や技術を身につけるとともに、暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出すことを目指して学習します。

学習目標

家庭科の学習は、SDGsの各目標と密接に結び付いている。家庭科の学習を通して、生活のあらゆる場面を見つめ直し、主体者としてよりよい意思決定をして、持続可能な社会を構築する力を養います。

学習方法

使用教科書【東京書籍701　家庭基礎 自立・共生・創造】

①授業の前に教科書に目を通して予習しておきましょう。
②毎時間ワークシートを記入し、ファイルに閉じて整理しておきましょう。
③被服実習や調理実習にも積極的に取り組み、理論を実践に結び付けて日常生活に活かしましょう。
④日常的に新聞や本、テレビ、インターネット等から情報を入手し、疑問を持った内容を調べ、周囲の人に提案したりしていきましょう。

評価方法

知識・技能　40 %　：　・定期考査　・被服実習（実技試験）

思考・判断・表現　30 %　：　・定期考査　・課題学習（夏休みの宿題）　・被服実習（作品点）

主体的に学習に取り組む態度　30 %　：　・加点課題への取り組み　・提出物

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
											▼																								▼		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
家族・社会との共生	生涯を見通す		■	■	■																																
	人生をつくる				■	■	■	■	■																												
	子どもと共に育つ																		■	■	■	■	■	■	■	■	■										
生活の自立	衣生活をつくる									■	■	■					■	■																			
	食生活をつくる																					■	■						■	■	■	■	■	■			
	住生活をつくる																		■										■								

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-27	総合的な探究の時間	2	S・A	1	必修

何を学ぶか

・職業や自己の進路に関して、適切な課題を設定し、課題解決に向けた探究活動をおこなう。
・教科で得た知識と他者から得た多様な考え方を掛け合わせて課題の解決に必要な手法を見出す方法を学ぶ。
・様々な人々との話し合いを通じて、合意形成で必要なルールや他人を思いやること等について学ぶ。
・自身の今後のキャリアについて探究する機会とし、希望進路の実現につなげていく。

学習目標

・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を身に付ける。
・より良い社会の形成に主体的に関わることができる能力を身に付ける。
・協働的な学びを通じて、他人の考え方を柔軟に受け入れ、自己の在り方や生き方について考える力を身に付ける。

学習方法

・1学期は、自身が選択した分野（職業・進路先別）に分かれて、探究活動をおこなう。
・2学期は、1学期の継続として研修旅行の訪問先の探究活動を行い、実際の研修旅行で内容を完結させる。
・3学期は、ここまでの総探の活動を活かし、自らの今後の人生を探究させ、キャリア形成に向けた意識の向上を図る。

評価方法

毎時間の活動内容（課題提出、グループ活動における貢献度）や成果発表、リフレクションシート、ポートフォリオ等により総合的に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
総合的な探究の時間	職業分野の課題探究	／	■	■	■	■	■						／	／	／													／	／							／	／
		／						■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■										／	／							／	／
	研修旅行について	／											／	／	／				■	■	■	■						／	／							／	／
		／											／	／	／								■	■	■			／	／							／	／
	自身のキャリア形成に向けて	／											／	／	／											■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

※各自（またはグループごとに）テーマを設定し、研究発表を行う。

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-27	総合的な探究の時間		2	P	1	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。また、これまでの活動を振り返り、集団や個人の課題を発見し、3年次の卒業研究に向けて、研究テーマの決定に繋げられるようにする。

学習方法

・1学期及び2学期は、さまざまなスポーツへのかかわり方を他校種交流を通して学ぶ。仲間と協力し、指導案の作成や実践をおこない、「支える」「知る」観点からの学びを深める。
・3学期は3年次の卒業研究のテーマ選択に向けて、各種目での専門性を高めるとともに、自らを振り返り、各種目や個人の課題を整理する。

評価方法

毎時間の活動内容（指導案の作成、グループ活動における貢献度）、レポート等により、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点で総合的に評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
総合的な探究の時間	剣道（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	陸上競技（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
2-28	総合的な探究の時間		2	P	1	必修

何を学ぶか

① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
③ 科学的根拠に基づいた運動実践により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。また、これまでの活動を振り返り、集団や個人の課題を発見し、3年次の卒業研究に向けて、研究テーマの決定に繋げられるようにする。

学習方法

・1学期及び2学期は、さまざまなスポーツへのかかわり方を他校種交流を通して学ぶ。仲間と協力し、指導案の作成や実践をおこない、「支える」「知る」観点からの学びを深める。
・3学期は3年次の卒業研究のテーマ選択に向けて、各種目での専門性を高めるとともに、自らを振り返り、各種目や個人の課題を整理する。

評価方法

毎時間の活動内容（指導案の作成、グループ活動における貢献度）、レポート等により、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点で総合的に評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
総合的な探究の時間	剣道（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バスケットボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	バレーボール（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	陸上競技（男女）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	硬式野球（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	サッカー（男子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／
	ソフトテニス（女子）	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	／	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	／	／	■	■	■	■	■	■	／	／